



「黙とう」をささげましょう

原爆犠牲者や戦没者のご冥福をお祈りし、平和への誓いを新たにするためにサイレンを吹鳴しますので「黙とう」をお願いします。

- 8月6日(土) 午前8時15分 (広島祈りの日)
- 8月9日(火) 午前11時2分 (県民祈りの日)
- 8月15日(月) 正午 (全国戦没者追悼式)



ふるさとを「紙芝居」で知ろう! ☎ 商工観光課 ☎050(3381)5032

「ふるさと」を知り、南島原市に誇りを持ってもらうため、下記のとおり紙芝居の読みかたりを行います。
多くの皆さんの参加をお待ちしています。

☎ 無 料 ☎ 不 要

期 日	時 間	開 催 場 所
8月11日(木)	14時～	加津佐図書館
8月20日(土)	11時～	原城図書館
8月20日(土)	13時30分～	口之津図書館
8月20日(土)	14時～	西有家総合学習センター 視聴覚室
8月23日(火)	14時～	深江図書館
8月28日(日)	11時～	有家図書館



動乱原城史



海を渡った少年たち



弟 堀



口之津物語



安次とふしぎな田んぼ

国際交流員「林 晶」さんによるコラム

リンさんのぶらり中国

Vol.1～ 私の家族～

大家好!! 皆さんこんにちは。国際交流員 林です。中国福建省の莆田市から来ました。これからよろしくお願ひします。

今回は、私の家族を紹介します。
家族は父、母、夫、長男、私の5人家族です。中国では二世帯同居は普通で、三世帯同居する場合も珍しくありません。

我が家の朝の風景は、というと、父が一日の一番の楽しみである庭で鉄観音と呼ばれる中国茶を味わっている奥で、母が皆のためにご飯を用意し、警察官の夫は出勤の準備ででてこまい、という状況です。

4歳の息子「トントン」は毎日幼稚園に通っています。中国の幼稚園は大、中、小の3クラス。教室は広く、用途に合わせたスペースに分かれています。勉強スペース

には机があり、中クラスから日本の小学校のように席で読み書き、算数などの勉強をします。トントンはまだ小クラスなので、勉強はまだですが、塗り絵をしたりして、楽しんでます。

家族は旅行が大好きで、休日にはマイカーを運転してよく出かけていました。今までに福建省の武夷山や、土楼など、ほとんどの名所に行きました。トントンは、車では、いつも歌ったり踊ったりとても賑やか。こちらにいる間は、会えませんが、インターネット電話でコミュニケーションをしています。最近、「今度、ぼくが飛行機を運転してママに会いに行くよ」と言ってくれました。

平凡ですが私の大切な家族です。



私の両親



夫と息子トントン
アモイの海辺にて

特集 ふるさとの名は「小豆島」



オリーブ園からの眺望

特産

オリーブ

オリーブは、同町屈指の特産品。実は、オリーブ油や新漬け、化粧品などに加工されます。観光農園であるオリーブ園では2千本が栽培されています。



観る

花寿波

三都半島東岸に位置する大小2つの無人島で、種々の海食地形の美しいスポット。海沿いの道路は、島原半島と似ており、口之津や南串山を思わせる風景です。



二十四の瞳映画村

懐かしむ

二十四の瞳

同町出身の壺井栄が、ふるさとを舞台に描いた傑作小説「二十四の瞳」。「二十四の瞳映画村」や「岬の分教場」など、昭和初期を感じさせる施設があります。



SUGHATA TOWN

香川県
小豆島町は
こゝにまはります



望む

寒霞溪

「神懸山(寒霞溪)」として国の名勝にも指定されている風光明媚な渓谷。日本書紀にも記述があるほどで、ロープウェイからの景色は圧巻。



走る

オリーブマラソン

先日34回を終了した同マラソンは、5千人規模のランナーが集まる人気の大会です。南島原市からも選手を派遣し、交流を続けています。



愉しむ

オリーブ記念館

穏やかな瀬戸の海が眼下に見渡せ、まるで地中海のような景色。園内にはさまざまな種類のオリーブが栽培されています。

味わう

醬の郷 -ひしおのさと-

小豆島町の特産品「醤油」「佃煮」。これらの蔵が軒を連ね、風情のある界隈は「醬の郷」と呼ばれます。工場見学や直売所に多くの観光客が詰め掛けます。



日本有数の透明度を誇る美しい珊瑚礁の島にあります。60の砂浜を有し、1年中マリンスポーツが楽しめることでも有名です。

☆特産品…黒糖焼酎・マンゴー・ドラゴンフルーツ・もずくそば
☆人口…5,496人(平成23年6月末現在)
☆面積…20.49平方キロメートル

もう一つの姉妹都市、
与論町ってどんなまち—
明治期、当時の口之津は石炭輸出口として活況を呈しており、働き手が不足することも少なくありませんでした。一方で、同時期与論ではひどい飢饉に見舞われます。
これをきっかけに与論から約1,200人が移住、互いに両町に多大な貢献をしたという歴史があります。その後、口之津における石炭輸出の衰退などで、与論町に帰る者、大牟田へ再移住する者もありましたが、その後も与論町との交流が続き、今に至っています。
平成18年3月11日に当時の口之津町との姉妹町盟約が行われました。